

	方剂名	効能	生薬組成
	書籍	主治および証	病機 方意
和解剤 治瘧剤 2			
かじんいん 何人飲		補気養血・截瘧	何首烏 15g・人参 3g・当帰 6g・陳皮 6g・生姜 3g 水煎するか水と酒で煎じ、発作の前2時間に服用する。
	景岳全書	<p><主治> 久瘧、気血両虚 悪寒に引き続き発熱、熱感があつて発汗、解熱する瘧の発作が慢性に持続し、顔色が萎黄、舌質が淡、脈が緩大で無力などが発生する。</p> <p><病機> 瘧が慢性的に持続し、脾胃の運化が障害されて気血の生化が不足し、気血両虚になって、顔色が萎黄、舌質が淡、脈が緩大で無力などが発生する。</p> <p><方意> 益気養血して扶正祛邪する必要がある。 養血截瘧の何首烏が主薬であり、瘧邪を除くことができる。補血の当帰が補助薬で、補気の人参と共に、何首烏を補佐する。芳香の陳皮と、辛散の生姜は理気和中に働き、補益薬の膩滯を防止する。</p> <p><参考> 加減法 脾気虚が甚だしければ、白朮・炙甘草を加える。 脇下の腫瘍（脾腫など）を伴うときは、軟堅消痞の鼈甲を配合する。 久瘧に対して、烏梅・黄耆などを適宜加えるとよい。 本方（何人飲）は補虚に働くので、瘧疾の初期や、虚していない場合には禁忌である。</p>	